

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人おさしお会
(ユニット名)	グループホームきらら
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿屋市吾平町麓3766番地1
記入者名 (管理者)	松元 寿子
記入日	平成 20 年 6 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を考慮しながら地域の中でその人らしく暮らしていける支援と事業所と地域の関係性を綴った理念を掲げている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時、ミーティングなどで理念に触れ確認し共有している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には、面会時や家族会など、また地域住民の方々には、触れ合う機会を事あるごとに設け理念を伝え浸透に努めている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	一部の近隣住人の方とは、頂物や菜園で取れた野菜などのやり取りやイベント参加へのこえかけを行い日常的なつきあいが出来るような関係作りに努めている。		散歩時などお茶のこえかけもおこなっているが、今後も日常的な付き合いができるような関係作りに努めたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭出展や見学、また夏祭り見学、近隣小学校との交流など地域とのつきあいに努めている。		今後も積極的に地域の行事参加に努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の小中学生のボランティアや実習生の受け入れなど積極的に行なっている。		地域の高齢者サロンを当ホームで年数回開催し交流をもつなど今後も継続したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全体で評価の意義を理解し改善にとりくんでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でとりあげられた検討事項は、受け止め経過を報告している。そこでの意見、意向を取り入れサービス向上に生かしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	声掛けにて市町村職員にイベントに参加してもらい情報交換の機会をつくったり、運営などに関する疑問点を市町村担当職員へ連絡をとり確認するなど情報交換に努めている。		今後も積極的に市町村との情報交換に努めサービスの質の向上に努めたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	開設以来制度活用対象の事例は、ないが必要時に活用できるよう定期的に勉強会に取り入れている。		今後も職員の勉強会の機会を定期的に設け必要時は、関係者を交え活用できるよう支援したい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で学ぶ機会をもち、高齢者虐待防止関連法に関する理解、浸透に努めている。		今後も定期的に学ぶ機会をもち、高齢者虐待防止関連法に関する理解、浸透に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に関しては重要事項説明書などの文書にてその都度解りやすく説明し同意書をえている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口を明確に表示し、苦情、意見不満を速やかに検討し検討内容を利用者、家族へ報告、記録に残し推進会議などでも報告をおこなう。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の各担当職員が月初めに利用者の様子や活動状況を手紙でご家族へ知らせている。個人の預かり金は個別の出納帳を作り管理し定期的にご家族に確認していただいている。職員の入退職に関しても家族会や手紙などで報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口を明確に表示し、苦情、意見不満を速やかに検討し検討内容を利用者、家族へ報告、記録に残し推進会議などでも報告をおこなう。又家族会や定期的な手紙などでも意見、意向などを確認し話しやすい雰囲気作りにも配慮している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議などで意見や提案を聞く機会を設け反映できるよう努めている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>早出、遅出のローテーションを組み利用者の状況に応じた対応が出来るよう勤務調整に努めている。又必要に応じて柔軟に職員の配置を考慮している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各ユニットの職員は固定しており離職者は平成19年度は2ユニットで1人であった。職員移動時は、ご家族、利用者へ紹介している。日頃より利用者や家族にとって馴染みの職員が継続して支えられるよう努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順番に研修を受ける機会を設けている。研修後は全体会議で報告する機会を設けている。またグループホーム内の年間勉強会の計画をたて研修を受ける機会確保につとめている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に連絡協議会があり定期的な研修参加や、情報交換も行なっている。今年度は、利用者様との遠足時の昼食場所の提供協力を近隣グループホームへ依頼し交流をはかった。		今後も積極的に交流の機会を作りたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	必要な時に有給が使用できたり、年3回関連事業所との親睦交流会の開催など気分転換を図れる環境作りにとりくんでいる。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	介護福祉士取得者は、正職員に任命されるシステムがあるなど向上心を持ち働ける取り組みがおこなわれている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前面談にて本人と時間をかけてアセスメントし状態把握に努め信頼関係を築く努力をおこなっている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前面談にて家族と時間をかけてアセスメントし状態把握に努め信頼関係を築く努力をおこなっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、本人とゆっくりと話す時間を設け必要な支援を検討している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必要があれば体験滞在や宿泊を提供し徐々に馴染みながらサービス利用に結べるようつとめている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴を把握した上で利用者の思いを理解し共に生活する仲間としての関係作りに努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況、要望を確認しその思いを家族と共有し共に本人を支える事ができる関係を築く努力をおこなっている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人、家族とのアセスメントを通し必要時は、職員が仲介し本人、家族のよりよい関係に向けた支援に努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容室での散髪や墓参り、家族の面会依頼などをケアプランに取り込み馴染み関係の継続支援に努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個人の精神面も配慮しテーブル配置の配慮や利用者同士の関係がうまくいくよう職員が仲介するなど日頃より職員間で情報を共有し利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	隣接施設へ移られた利用者様への面会、声掛け情報交換をおこなっている。		退所された方の所へドライブ外出時訪ねるなど関係継続に努めていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	そのつど思いや意向を確認し確認困難な場合は表情や行動などでその思いを汲み取るよう勤めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前面談にて本人、家族、ケアマネジャーよりアセスメントし把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりを観察し現状把握に努め経過を記録し総合的に把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者様の各担当職員が中心となり本人や家族の思いをその都度把握し職員間で情報を共有それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に状況を伝えると共に本人、家族の意向を確認しながら必要に応じプランの見直しを行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の実施又ミーティング記録、日々の申し送り簿等により 情報を共有し実践へ反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望時は、事業所の多機能性を活かした支援を行なう体制がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの受け入れや消防署への依頼にて救命講習の実施など地域資源との協働をおこなっている。今後も努力したい。		今後も積極的に機会を作り努力したい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在のところ他のサービス利用希望はなく活用支援はおこなっていないが、利用意向が今後あれば支援していきたい。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にて地域包括支援センターとのかかわりができ情報交換に努めている。		今後も積極的に情報交換を行い情報交換に勤めたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望があればかかりつけ医を選んでいただくよう支援している。また受診通院は、本人、ご家族の希望にて対応しており状況によりご家族の送迎協力依頼もある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医を定期的に受診していただき受診時は、職員が付き添い本人様の状況をつたえ服薬調整がおこなわれているケースもある。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設老健看護師が定期的に訪問し個別に健康把握、医療的なアドバイス、利用者からの相談を受けている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、医療機関と連携し必要な情報交換を行なっている。また入院による環境変化が原因での認知進行を予防するため事業所内での対応可能な段階での早期退院をアプローチしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に重度化対応体制に係る指針にて本人、家族に説明している。また終末期における医療処置の対応や意向も機会をもうけ本人、家族へ確認している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	急変時は、すぐに対応できるよう関連医療機関と緊急体制マニュアルを作成しチームでの支援に努めている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族と移り住む場所の見学やケア関係者との情報交換をし住み替え時のダメージ防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会などをとし、職員の意識向上を図っている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人意向を確認し自己決定の支援に努めている。また意思表示が困難な方は、表情を汲み取り支援している。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースで日課を送っていただき希望時は、個別に買い物、散髪、散歩の付き添いを行なう等個別性のある支援に努めている。	職員側の都合を優先しないよう努めているが今後も益々希望に沿って支援できるよう努力したい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望があれば買い物やなじみの理・美容院への送迎や付き添い 支援をおこなっている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の嗜好を確認しながら職員と一緒に準備や片付けをおこなっているが個人の意欲、身体面から限られた利用者となっている。利用者が下ごしらえに参加できる食材選びの工夫し支援している。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は、それぞれの利用者の嗜好品を把握しており、希望時にお酒の提供をしたり飲み物やおやつも数種類から選んでいただく等嗜好を楽しんでいただけるよう支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	職員は、必要時は、排泄チェック表を用い、それぞれの利用者の排泄パターンを把握し個人の力にあわせ時間での排泄の声掛けや希望時のオムツ着用など自立に向けた排泄支援をおこなっている。		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	夜勤帯は他の利用者の安全管理もあり実施していないが希望があればその都度入浴対応している。		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	日中の活動を工夫し就寝に向けての生活リズムに配慮している。眠れない利用者に関しては、生活リズムを振り返り本人を含め職員間で検討している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	利用者の意向を確認し買い物、ドライブ、レクリエーションなどの実施やグループホームでの役割をみだし張りのある生活支援をおこなっている。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	4名の方が2～3000円のお金を所持管理されており、希望時に買い物にでかけ本人が支払いをされ職員は見守っている。		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	戸外散歩、散髪、買い物、受診など希望時に外出支援をおこなっている。		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	随時それぞれの意向を確認し故郷訪問や希望場所へのドライブなど積極的に外出支援を行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話のとりつきや、手紙の代筆支援をおこなっている。携帯電話所持の利用者もおられ、受・送信時の支援をおこなっている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時は、それぞれの居室鬼案内しゆっくり過ごせる環境作りに努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	歩行困難な利用者様の徘徊時は、手添えで職員が付き添っている。現在拘束事例はないが身体拘束に関する職員研修を定期的実施し意識を高めている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	必要な方に関しては、定期的に所在確認をし鍵をかけないケアの実践にとりくんでいる。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者が集うホールで記録をとるなど全体の状況が把握できるよう努めている。又プライバシーに配慮しながら安全確認をおこなっている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人で石鹸、ハサミ、髭剃りなど管理されてる方もいらしゃり、個人の力に合わせ保管・管理がされている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	服薬時、職員が、名前を確認し本人に渡すなど誤薬予防につとめている。また事故やひやりハットに関する記録報告、それをもとに再発防止の検討会を開くなど事故防止の取り組みに対しての職員の意識を高めている。		今後もひやりハット事例を勉強会に定期的に取り上げ職員 の事故防止への意識を高めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が消防署による救急救命講習に参加し緊急時の対応が出来るよう対応している。夜間も含めて緊急時マニュアルを整備し全職員が周知している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し月1回のペースで利用者、職員の避難訓練を実施している。		今後も引き続き近隣住民に災害時の協力や避難訓練参加協力を呼びかけていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	それぞれの利用者の生活意向を重視し自由な暮らしの大切さや、その時の状況に応じて起こりうるリスクについて家族へ説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は、日頃のそれぞれの状態を把握し観察し体調管理をおこなっている。2回/日のバイタル測定や4名の方の1回/週のFBS施行など、一人ひとりの体調変化の確認や早期発見による対応に努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬リストを作成し職員全員確認している。服薬変更の際は薬の専門書にて内容を確認するなど個人の服薬内容を確認し症状の変化を主治医に伝えるなど服薬支援をおこなっている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維を多く含む食材使用の工夫や散歩、ラジオ体操など体を動かす機会を設け便秘予防につとめている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨きの声掛けや、個人の力に応じた支援を行い就寝前に義歯洗浄剤に漬け込むなど口腔内の清潔保持に努めている。義歯調整や歯槽膿漏予防に定期的に歯医者受診される利用者もいらしゃる。		今後も口腔ケアの勉強会を継続し口腔ケアの重要性を意識するよう努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食事摂取表にて摂取量を確認している。又水分や食事摂取量が極端に少ない日が続いたときは、個別に嗜好物を提供し時間ごとのチェック表に記録し1日トータルの摂取量を確認し医療援助が必要な時は主治医に連絡している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	身近な感染症についてマニュアルを作成し流行時期には職員が目につく場所にマニュアルを掲示したり勉強会を開くなど意識することで感染症予防に努めている。又同意による職員、利用者のインフルエンザ予防注射を実施している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルを作成し定期的に勉強会を開き職員間の意識を高めている。まな板やふきんは使用后、漂白し冷蔵庫も定期的に掃除、残食材の点検を施行している。又1日おきに買い物にでかけ新鮮な食材の提供に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周辺に花を植えたプランターやベンチを置き雰囲気づくりに配慮している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を採り入れた展示物や花を飾り、臭いの気になる場所には炭を置くなど居心地のよい空間作りに努めている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間のあちこちにテーブルやソファ、イスを設置し思い思いに過ごせるスペースを工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や利用者と相談しながら在宅で使用していたテーブルや馴染みの家具などを持ち込んでいただき居心地よく過ごせる配慮をしている。位牌を持ってこられているかたもいらっしやる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日に6回定期的に室温を確認、記録し室温管理をしており各居室、ホールには、換気・空調の設備があり配慮に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関入り口のスロープやホール、トイレ、浴室等必要な場所に手摺り設置されており安全な環境づくりに設計されている。又個人の状態変化で手摺り設置などが必要となった時は必要な場所へ設置している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗が継続する際は経過を追ってその都度職員間で話し合い自立して暮らせるように工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関周辺に花や菜園を作り、ベンチを置き好きなときにひなたぼっこをしながら戸外を楽しまれている。		

利用者本意の視点にたち馴染みの環境の中で安心安全に暮して頂けるようあらゆる点に配慮している。

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者本意の視点にたち馴染みの環境の中で安心安全に暮して頂けるようあらゆる点に配慮している。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人おさしお会
(ユニット名)	グループホームきらら
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿屋市吾平町麓3766番地1
記入者名 (管理者)	松元 寿子
記入日	平成 20 年 6 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を考慮しながら地域の中でその人らしく暮らしていける支援と事業所と地域の間を繋いだ理念を掲げている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時、ミーティングなどで理念に触れ確認し共有している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には、面会時や家族会など、また地域住民の方々には、触れ合う機会を事あるごとに設け理念を伝え浸透に努めている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	一部の近隣住人の方とは、頂物や菜園で取れた野菜などのやり取りやイベント参加へのこえかけを行い日常的なつきあいが出来るような関係作りに努めている。		散歩時などお茶のこえかけもおこなっているが、今後も日常的な付き合いができるような関係作りに努めたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭出展や見学、また夏祭り見学、近隣小学校との交流など地域とのつきあいに努めている。		今後も積極的に地域の行事参加に努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の小中学生のボランティアや実習生の受け入れなど積極的に行なっている。		地域の高齢者サロンを当ホームで年数回開催し交流をもつなど今後も継続したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全体で評価の意義を理解し改善にとりくんでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でとりあげられた検討事項は、受け止め経過を報告している。そこでの意見、意向を取り入れサービス向上に生かしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	声掛けで市町村職員にイベントに参加してもらい情報交換の機会をつくったり、運営に関する疑問点を市町村担当職員へ確認するなど情報交換に努めている。		今後も積極的に市町村との情報交換に努めサービスの質の向上に努めたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	開設以来制度活用対象の事例は、ないが必要時に活用できるよう定期的に職員勉強会に取り入れている。		今後も職員勉強会の機会を定期的に設け必要時は、関係者を交えて活用できるよう支援したい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で定期的に学ぶ機会をもち、高齢者虐待防止関連法に関する理解、浸透に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては重要事項説明書などの文書にてその都度解りやすく説明し同意書をえている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を明確に表示し、苦情、意見不満を速やかに検討し検討内容を利用者、家族へ報告、記録に残し推進会議などでも報告をおこなう。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の各担当職員が月初めに利用者の様子や活動状況を手紙でご家族へ知らせている。個人の預かり金は個別の出納帳を作り管理し定期的にご家族に確認していただいている。職員の入退職に関しても家族会や手紙などで報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を明確に表示し、苦情、意見不満を速やかに検討し検討内容を利用者、家族へ報告、記録に残し推進会議などでも報告をおこなう。又家族会や定期的な手紙などでも意見、意向などを確認し話しやすい雰囲気作りにも配慮している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議などで意見や提案を聞く機会を設け反映できるよう努めている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	早出、遅出のローテーションを組み利用者の状況に応じた対応が出来るよう勤務調整に努めている。又必要に応じて柔軟に職員の配置を考慮している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員は固定しており離職者は平成19年度は2ユニットで1人であった。職員移動時は、ご家族、利用者へ紹介している。日頃より利用者や家族にとって馴染みの職員が継続して支えられるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順番に研修を受ける機会を設けている。研修後は全体会議で報告する機会を設けている。またグループホーム内の年間勉強会の計画をたて研修を受ける機会確保につとめている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に連絡協議会があり定期的に研修が行なわれ、情報交換も行なっている。		今後は、同業者施設との協働による行事を計画するなど交流を通じたサービス向上に努めたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	必要な時に有給が使用できたり、年3回関連事業所との親睦交流会の開催など気分転換を図れる環境作りにとりくんでいる。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	介護福祉士取得者は、正職員に任命されるシステムがあるなど向上心を持ち働ける取り組みがおこなわれている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前面談にて本人と時間をかけてアセスメントし状態把握に努め信頼関係を築く努力をおこなっている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前面談にて家族と時間をかけてアセスメントし状態把握に努め信頼関係を築く努力をおこなっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、本人とゆっくりと話す時間を設け必要な支援を検討している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必要があれば体験滞在や宿泊を提供し徐々に馴染みながらサービス利用に結べるようつとめている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴を把握した上で利用者の思いを理解し共に生活する仲間としての関係作りに努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況、要望を確認しその思いを家族と共有し共に本人を支える事ができる関係を築く努力をおこなっている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人、家族とのアセスメントを通し必要時は、職員が仲介し本人、家族のよりよい関係に向けた支援に努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容室での散髪や、家族の面会依頼などをケアプランに取り込み馴染み関係の継続支援に努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個人の精神面も配慮しテーブル配置の配慮や利用者同士の関係がうまくいくよう職員が仲介するなど日頃より職員間の情報連携を密にし利用者同士の関係が円滑になるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された方の所へドライブ外出時訪ねるなど関係継続に努めている。		今後も定期的に計画し関係継続に努めたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	そのつど思いや意向を確認し確認困難な場合は表情や行動などでその思いを汲み取るよう勤めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前面談にて本人、家族、ケアマネジャーよりアセスメントし把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりを観察し現状把握に努め経過を記録し総合的に把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者様の各担当職員が中心となり本人や家族の思いをその都度把握し職員間で情報を共有それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に状況を伝えると共に本人、家族の意向を確認しながら必要に応じプランの見直しを行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の実施又ミーティング記録、日々の申し送り簿等により 情報を共有し実践へ反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望時は、事業所の多機能性を活かした支援を行なう体制がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの受け入れや消防署への依頼にて救命講習の実施など地域資源との協働をおこなっている。		今後も益々地域資源との協働を意識し努力したい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在のところ他のサービス利用希望はなく活用支援はおこなっていないが、利用意向が今後あれば支援していきたい。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にて地域包括支援センターとのかかわりができ情報交換に努めている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望があればかかりつけ医を選んでいただくよう支援している。また受診通院は、本人、ご家族の希望にて対応しており状況によりご家族の送迎協力依頼もある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医を定期的に受診していただき受診時は、職員が付き添い本人様の状況をつたえ服薬調整がおこなわれているケースもある。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設老健看護師が定期的に訪問し個別に健康把握、医療的なアドバイス、利用者からの相談を受けている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、医療機関と連携し必要な情報交換を行なっている。また入院による環境変化が原因での認知進行を予防するため事業所内での対応可能な段階での早期退院をアプローチしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に重度化対応体制に係る指針にて本人、家族に説明している。また終末期における医療処置の対応や意向も機会をもうけ本人、家族へ確認している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	急変時は、すぐに対応できるよう関連医療機関と緊急体制マニュアルを作成しチームでの支援に努めている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族と移り住む場所の見学やケア関係者との情報交換をし住み替え時のダメージ防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会などをとし、職員の意識向上を図っている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人意向を確認し自己決定の支援に努めている。また意思表示が困難な方は、表情を汲み取り支援している。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日によって朝食が10時頃に食べられる方がいらっしゃるなど、本人の意向やペースでその人らしい生活が送れるよう支援している。	職員側の都合を優先しないよう努めているが今後も益々希望に沿って支援できるよう努力したい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望があれば買い物やなじみの理・美容院への送迎や付き添い 支援をおこなっている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の嗜好を確認しながら職員と一緒に準備や片付けをおこなっているが個人の意欲、身体面から限られた利用者となっている。利用者が下ごしらえに参加できる食材選びの工夫し支援している。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は、それぞれの利用者の嗜好品を把握しており、希望時にお酒の提供をしたり飲み物やおやつも数種類から選んでいただく等嗜好を楽しんでいただけるよう支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	職員は、必要時は、排泄チェック表を用い、それぞれの利用者の排泄パターンを把握し個人の力にあわせ時間での排泄の声掛けや希望時のオムツ着用など自立に向けた排泄支援をおこなっている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜勤帯は他の利用者の安全管理もあり実施していないが希望があればその都度入浴対応している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を工夫し就寝に向けての生活リズムに配慮している。眠れない利用者に関しては、生活リズムを振り返り本人を含め職員間で検討している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の意向を確認し買い物、ドライブ、レクリエーションなどの実施やグループホームでの役割をみだし張りのある生活支援をおこなっている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	3名の方が2～3000円のお金を所持管理されており、希望時に買い物にでかけ本人が支払いをされ職員は見守っている。又面会人に小遣いを渡すのを楽しみにされている利用者もいらっしゃる。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外散歩、散髪、買い物、受診など希望時に外出支援をおこなっている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	随時それぞれの意向を確認し故郷訪問や希望場所へのドライブなど積極的に外出支援を行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話のとりつきや、手紙の代筆支援をおこなっている。携帯電話所持の利用者もおられ、受・送信時の支援をおこなっている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時は、それぞれの居室鬼案内しゆっくり過ごせる環境作りに努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知低下があり不意な体動がある利用者様には、車椅子やベッド柵に鈴をつけ拘束しないケアの工夫に努めている。開設以来拘束事例は、ないが、身体拘束に関する職員研修を定期的に行い意識を高めている。		今後も引き続き研修を行い意識を高めていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	必要な方に関しては、定期的に所在確認をし鍵をかけないケアの実践にとりくんでいる。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者が集うホールで記録をとるなど全体の状況が把握できるよう努めている。又プライバシーに配慮しながら安全確認をおこなっている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人で石鹸、ハサミ、裁縫道具など管理されてる方もいりしゃり、個人の力に合わせ保管・管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	服薬時、職員が、名前を確認し本人に渡すなど誤薬予防につとめている。また事故やひやりハットに関する記録報告、それをもとに再発防止の検討会を開くなど事故防止の取り組みに対しての職員の意識を高めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が消防署による救急救命講習に参加し緊急時の対応が出来るよう対応している。夜間も含めて緊急時マニュアルを整備し全職員が周知している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し月1回のペースで利用者、職員の避難訓練を実施している。		今後も引き続き近隣住民に災害時の協力や避難訓練参加協力を呼びかけていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	それぞれの利用者の生活意向を重視し自由な暮らしの大切さや、その時の状況に応じて起こりうるリスクについて家族へ説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は、日頃のそれぞれの状態を把握し観察し体調管理をおこなっている。2回/日のバイタル測定や4名の方の1回/週のFBS施行など、一人ひとりの体調変化の確認や早期発見による対応に努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬リストを作成し職員全員確認している。服薬変更の際は薬の専門書にて内容を確認するなど個人の服薬内容を確認し症状の変化を主治医に伝えるなど服薬支援をおこなっている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維を多く含む食材使用の工夫や散歩、ラジオ体操など体を動かす機会を設け便秘予防につとめている。また排便コントロールに薬草茶を服用されている利用者もいらっしゃる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛け後、個人の力に応じた支援を行っている。就寝前には、義歯洗浄剤に漬け込むなど口腔内の清潔保持に努めている。		残歯保持者が3名いらっしゃり手入れが不十分だが、本人意向にて歯磨き支援もむずかしく検討中。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食事摂取表にて摂取量を確認している。又水分や食事摂取量が極端に少ない日が続いたときは、個別に嗜好物を提供し時間ごとのチェック表に記録し1日トータルの摂取量を確認し医療援助が必要な時は主治医に連絡している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	身近な感染症についてマニュアルを作成し流行時期には職員が目につく場所にマニュアルを掲示したり勉強会を開くなど意識することで感染症予防に努めている。又同意による職員、利用者のインフルエンザ予防注射を実施している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルを作成し定期的に勉強会を開き職員間の意識を高めている。まな板やふきんは使用后、漂白し冷蔵庫も定期的に掃除、残食材の点検を施行している。又1日おきに買い物にでかけ新鮮な食材の提供に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周辺に花を植えたプランターやベンチを置き雰囲気づくりに配慮している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を採り入れた展示物や花を飾り、臭いの気になる場所には炭を置くなど居心地のよい空間作りに努めている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間のあちこちにテーブルやソファ、イスを設置し思い思いに過ごせるスペースを工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や利用者と相談しながら在宅で使用していたテーブルや馴染みの家具などを持ち込んでいただき居心地よく過ごせる配慮をしている。位牌を持ってこられているかたもいらっしゃる。		本人の意向にて衣服や物がベット周辺の床に積み上げられている利用者がいらっしゃり整理整頓が出来る工夫をしていきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日に6回定期的に室温を確認、記録し室温管理をしており各居室、ホールには、換気・空調の設備があり配慮に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関入り口のスロープやホール、トイレ、浴室等必要な場所に手摺り設置されており安全な環境づくりに設計されている。又個人の状態変化で手摺り設置などが必要となった時は必要な場所へ設置している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗が継続する際は経過を追ってその都度職員間で話し合い自立して暮らせるように工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関周辺に花や菜園を作り、ベンチを置き好きなときにひなたぼっこをしながら戸外を楽しまれている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者本意の視点にたち馴染みの環境の中で安心安全に暮して頂けるようあらゆる点に配慮している。